

秋田の土地改良



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

みどり
水土里ネット秋田

目次

全国植樹祭を秋田県で開催！	2
全国へ発信！（全国土地改良大会秋田大会）	4
21世紀土地改良区創造運動(秋田県奨励賞と地方大賞への推薦地区が決定)	5
水土里ネット活動報告(各地の取り組み)	6
水土里ネット広報キャラバン	8
農村災害支援⑤ -19年災害復興“田植え順調に終了”-	9
農地・水・環境保全向上対策地域協議会第1回通常総会	10
農業農村工学会大会講演会の開催に向けて！	11
水土里情報利活用促進事業の現状	12
水土里ネットのIT化に向けた支援	14
土地改良施設維持管理適正化事業の加入について	15
会員だより	16
春の叙勲(県内関係者)	16
NHK“熱中時間”で農業用水路が取り上げられます	16
インフォメーション	17

◆発行所／秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL .018-888-2750(代) FAX .018-888-2834 <http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



「第6回水土里のみちウォーキング in 仁井田 walk」より

「手をつなごう 森と水とわたしたち」

第59回全国植樹祭が北秋田市で開催



秋田から始まる新しい森づくり

平成20年6月15日、新緑に包まれた北秋田市の北歐の杜公園にて天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、第59回全国植樹祭が開催されました。

今回の全国植樹祭は、7月の北海道洞爺湖サミットを控え、気候変動問題に世界の関心が集まっている中、豊かな「水と緑」の創造と未来への継承を開催理念に、「手をつなごう 森と水とわたしたち」を大会テーマに1万1,500の方が記念式典に参加し、記念植樹を行いました。

秋田県では、全国植樹祭の開催を契機として県民総参加の森づくりを一層推進し、日本一水と緑豊かな秋田を次の世代に引き継いでまいります。



歓迎レセプション

平成20年6月14日、大館市内のホテルに於いて、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、第59回全国植樹祭の開催県として、県内外招待者の植樹祭への来訪を歓迎し、懇親を深める場としてレセプションを開催しました。

当日朝発生した「岩手・宮城内陸地震」の影響で、中央招待者や県関係者の中に参加できない方がおられました。天皇皇后両陛下が多くの方々と御歓談なされるなど、厳かにかつ和やかに開催されました。

(秋田県農林水産部全国植樹祭推進室)



第31回 全国土地改良大会 秋田大会

■日時 平成20年10月14日(火)

■場所 秋田県立武道館

事業視察 平成20年10月15日(水)～16日(木)

多数の参加をお待ちしております!!

あと111日(6月25日現在)



【問い合わせ先】

総務企画部全国大会開催PJ 島山・阿部・齊藤・尾張谷
TEL.018-888-2713 FAX.018-888-2834



全国へ
発信!!

10月14日に第31回全国土地改良大会秋田大会が本県（秋田市）で開催されることは、ご承知のことと思われま。本会では役職員が一丸となってその成功に向けて鋭意努力しているところでございます。

この度、全国農村振興技術連盟より執筆依頼があり、以下のような内容で全国へ情報発信いたしましたので、会員及び関係の方々にお知らせいたします。（投稿：平成20年5月）

第31回全国土地改良大会秋田大会の “成功に向けた体制づくり”

「どさ」「ゆさ」これは秋田弁で、「どちらへ行かれるのですか?」「風呂に」という会話が四文字に要約されたものであります。秋田弁は他の地方の方言と比べ、単語の長さが比較的短い傾向にあり、寒冷な秋田県の気候に関係があるのではないかと考えられます。

代表的な表現として、「け!」（食べる!）・「く!」（食べる!）・「んだ」（そうだ）・「んた」（嫌だ）・「さい!」（しまった）等々があり地域によって分類され、県北だと尾高型のアクセントになり、県央・県南だと中高型のアクセントになる傾向が強く感じられます。

このような方言を使う秋田県で、本会が創立50周年の節目を迎えた年に、第31回全国土地改良大会秋田大会が、“あすを拓く大地・きらめく疏水・たくましき郷”をキャッチフレーズ（先頭文字の組み合わせで「あきた」）として、10月に開催することとなり組織一丸となってその成功に向けて万般に亘る準備を進めているところでございます。

大会会場となる秋田市内の県立武道館は、開館4年目で県内武道の中心道場であり約5,000人の収容が可能となっております。また、事業視察コースについては、日帰り並びに宿泊を伴う全5コースを設定し、秋田の歴史を満喫して頂きたいと考えております。それでは、事業視察コースの一部をご紹介します。

大潟・男鹿コース

雪の山から下りてくる“なまはげ”を地元の人々は一種の神様と考えてきたようであり数々の伝説があり、文化と歴史に偉大なロマンを抱き、男鹿一帯に豊かに伝承されてきたものであります。



由利・雄勝コース

小野小町は平安前期頃の女流歌人で、生まれは秋田県湯沢市小野という説が主流となっており、絶世の美女としての数々の逸話があり、秋田米の「あきたこまち」や秋田新幹線の列車愛称「こまち」は彼女の名前に由来するものでもあります。



日帰りコース

大潟村は、琵琶湖に次ぐ日本第二の湖であった「八郎潟」を干拓して誕生した地域で、入植村民を全国から募集し広い農地で大型機械を使った、新しい農業のモデルを目指している村です。

また、写真は竿灯と言って秋田市内で毎年8月に行われる稲穂に連なる提灯を米俵に見立て豊作を祈る祭り、東北四大祭りの一つとしてあげられております。



大会開催までいよいよ5ヶ月（現在は、111日）となり、大会式典や歓迎アトラクションなど随所に秋田らしさを演出し、準備に万全を期し県内関係者全員で盛り上がりのある大会としたいと考えております。それでは10月14日秋田でお会いしましょう。お待ちしております。

（総務企画部広報・渉外班）